



NEWS LETTER 第7号

著者	東北大学大学院歯学研究科地域歯科保健推進室
発行年	2011-05
URL	http://hdl.handle.net/10097/50634



大震災からの歩みとこれからの復興

東北大学大学院歯学研究科長 歯学部長 佐々木 啓一

3月11日発生の東日本大震災から早、3ヶ月が過ぎました。東北地方を中心に甚大な被害を出し、津波で多くの尊い人命が失われました。津波被災地の復興はまだまだの手つかずに等しい状態であり、福島原発事故は収束の兆しさえ見えておらず、被災者の方々はもとより我々を含め、被災地のすべての方々が悲しみ、焦り、そしていらだちをずっと感じています。皆様方におかれましても、これまで大変なご苦労をなされているものと存じます。ここに犠牲にな

られた方々への哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆様へお見舞い申し上げます。

歯学研究科におきましても建物や実験設備、研究教育環境にかなりの被害を受けました。在籍の教職員には人的な被害はなかったことが、せめてもの幸いでしたが、教職員、そして大学院、学部、附属歯科技工士学校の学生の中にはご家族、ご親戚を亡くされた方や、自宅や実家の流失や損壊などの被害を受けられた方がおられます。お見舞いを申し上げますと同時に、歯学研究科・歯学部としてはできる限りの援助を行っていきます。また震災以降、これまでの間、菊地正嘉名誉教授はじめ全国の同窓生の方々、歯科医師や歯科関係者の方々、歯科大学・歯学部、関係企業等からたくさんのご支援をいただいております。おかげさまで、歯学研究科・歯学部での教職員・学生支援、教育研究環境の復旧、被災地の継続的な支援活動を行ってこれることができました。心から御礼申し上げます。

さて、あの大地震から今日まで、歯学研究科・歯学部では被災地へのさまざまな支援活動を続けてきております。また早々に教育環境の復旧を図り学生教育をスタートさせ、そして教育研究の復興への歩みを続けております。ここに、これまでの活動と今後の復興へ向けての状況について皆様にご報告させていただきます。

3月11日、大変に申し訳ないことに私は東京へ向かう新幹線車中、浦和近辺で地震に遭い、大きな揺れに身を任せておりました。そして帰宅難民として浦和駅前で一夜を過ごし、翌12日早朝に運良く車を手に入れ、寸断されてしまった国道4号線を17～8時間かけて仙台まで戻りました。歯学研究科・歯学部では、地震直後に高橋、小坂両副研究科長、丸山事務長のご判断と指揮により教職員の安全の確保が図られ、災害対策本部が設置されました。すぐに学内にいた教職員、学生の無事が確認されたことは特筆に値します。

私は、13日、日曜の朝に被害状況を確認し、本部施設部に建物の安全確認を依頼しました。その日のうちに施設部長らにより基礎研究棟、臨床研究棟（旧病院棟）とも倒壊の危険はないが、地下から4階までの耐震改修中であった臨床研究棟については改修に着手していない5階から8階まで東西の外壁には外まで貫通する穴が空き、内部の壁にも多くの損壊があったこと、また基礎研究棟についてもところどころ落下の可能性ある壁の損傷が見つかったことから、要注意建物の判定となりました。臨床研究棟については一時的に立ち入り禁止措置をとりましたが、応急的な対応により建物の危険性が回避されましたので、数日で解除することができました。

また多数の犠牲者の身元確認への協力が必要となっており、対策会議を開催し、翌月曜日朝に教職員等の招集をかけました。集合場所は、耐震改修を済ませ被害をあまり受けなかった講義実習棟1階講義室としました。翌朝8時30分、自宅や家族、身内の安全確保や交通状況により出勤、通学出来なかった方も多数おられましたが、講義室に入りきれないほどの教職員・大学院生にお集まりいただきました。これらの皆様もそれぞれが被害を受けていたにも関わらず集まっていただき、その無事な姿を見て、大変嬉しく、また誇らしい思いを感じました。この日から、毎日朝夕の全体ミーティングを行いながら、身元確認や歯科医療救護活動、被災地へ歯ブラシ、義歯洗浄剤などの口腔ケア用品の提供、そして被災した研究室の整理、研究設備の点検などを続けてきました。現在まで身元確認には延べ約300名、医療救護には約250名の教職員・大学院生のご協力を頂きました。いずれもまだ継続中ですが、これまでの活動は大学当局、宮城県警、厚生労働省、日本歯科医師会からも高く評価されております。その詳細は研究科HPに記しておりますのでご覧ください。

対策本部となった講義室では炊き出しも行い、夜遅く寒いなか、検死や巡回から戻ってこられる先生方を迎えていました。また臨床研究棟は電気・水道というライフラインもやられていたことから、臨床系分野のほとんどは、講義実習棟に仮医局を構えることとなりました。この状態が臨床研究棟の応急補修が終了するゴールデンウィーク直前まで続きました。この間、多くの教職員の方々のご協力を得ることが出来、本当に感謝しております。また教職員、学生が分野等の垣根を越えて、一致団結できたことは、大変に素晴らしいことでした。

そして歯学研究科では、教育研究の復興を急ピッチで進めています。東北大学は卒業式を取りやめましたが、歯学研究科・歯学部では3月30日に全学の学部・研究科で唯一、学位記伝達式を挙行了しました。また4月25日には大学院オリエンテーションを他研究科に先駆けて開催しました。附属技工士学校の入学式も同日、挙行了しました。そして5月6日には各部局にて入学式を執り行い、5月9日月曜日から平成23年度の授業を開始しております。

まだまだ研究面の復旧は途上ですが、震災で破損、故障した大型の実験機器類の大多数は、第一次補正予算にて買い換え、修理がカバーされています。これらも震災から間もない時期に、研究機器類の被害状況を写真も添付して詳細に報告していただいた教職員の方々の努力の成果です。全部局の中で歯学研究科が唯一、すべての備品に関する報

告を上げたということが部局長連絡会議で報告されています。その他の備品等の損害が第2次補正等でどの程度賄えるかは未だ不明ですが、施設面での整備に関しては、臨床研究棟の残り部分の耐震改修を補正予算で行えるよう折衝中です。また取り急ぎの補修は行いましたが、ダメージが大きいことから緊急避難用、そして今後の改修が必要となる一時移転スペースとして、2階立ての大型プレハブが予算化され着工いたします。現在、改修工事も進行中で利用出来る土地も限られることから、現在の駐車場を大きく削ることとなり、皆様に大変なご不自由をおかけいたします。この期を逃すと改修はずっと出来ないことが予想されますので、歯学研究科・歯学部発展のためにご理解をいただければと思います。

さらに、今回の震災経験から各方面で大規模災害対応のシステムや教育のプロジェクトが展開されつつあります。歯学・歯科医療に関しては第一線で社会貢献を果たし、貴重な経験をした私ども東北大学がやり得る、またやらなければならない事案が多数あります。これらには是非、真摯に向き合い成就させたいと考えます。「国のいしづえ」として責務を果たすべく、教職員、学生ともども歯学研究科・歯学部が努力していければと切に願います。応援、宜しくお願いいたします。



東日本大震災時における東北大学病院歯科部門の対応

総括副院長 島内 英俊

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、仙台市内は震度6の地震に見舞われ、幸い本院の患者・スタッフに被害はなかったものの、直後に発生した大津波により、宮城県を含む東北地方太平洋岸の市町村が壊滅的打撃を受け、死者・行方不明者27,931人という未曾有の災害となった。病院では直ちに災害対策本部が設置され、病院の復旧作業ならびに被災地への救援・支援活動を開始した。歯科部門は病院の指揮下に入るとともに、歯学研究科と協力してご遺体の身元確認作業への協力や避難所への歯科巡回診療の展開など独自の活動を展開してきた。

まず歯科部門の被害であるが、3月11日の本震においては、新外来棟5階南東側天井の配水管が破損したことにより大量の漏水を生じ、水は周囲の診療機器を濡らしたばかりでなく床下に溜まり、5階の歯科用ユニットほぼ全部に被害が及んだ。溜まった水はさらに4階天井から漏水し、同フロアのユニットにも被害を及ぼした。そればかりでなく診療室・中央技工室の機器や戸棚等が数多く転倒して、見るも無惨な状況となった。歯科部門職員および病院事務部門の奮闘により、3月28日には3・4階フロアが使用可能となり、同日から外来を部分的に再開することができた。4月4日には5階フロアも復旧がなり、全面的再開をしたのもつかの間、同7日深夜に発生した最大の余震により再び5階からの漏水と機器の転倒が発生した。幸い2回目の被害については速やかな復旧と補強ができ、同18日には再開にこぎつけることができた。

東北大学病院は被災地における後方支援病院として、石巻日赤病院などから多くの重症患者を受け入れてきた。歯科部門の病棟ベッドも受け入れの場として用いられるとともに、外科系職員はこれらの患者の病棟での管理に協力した。一方、平成22年度臨床研修歯科医師は震災発生翌週から、チームを結成して、被災地より本院に移送されてくる患者の身の回りの世話などの様々な院内ボランティア活動を行った。被災地では高齢者の重症肺炎患者が多数発生したとの報告があり、その一因として誤嚥の関与が推測されており、本院に転送されてくる患者の口腔内も悲惨な状況であったため、病棟での口腔ケアのニーズが増し、歯科衛生室ならびに歯科臨床研修医がこれに当たってきた。これらの活動は口腔健康、そして歯科医療の重要性を社会的にアピールする上でも重要なものと考えている。なおご遺体の身元確認作業への協力や避難所への歯科巡回診療の詳細については、以下の項に譲りたい。

最後に、今回の未曾有の大震災に際して様々な協力を賜った病院歯科部門のスタッフ各位に、総括副院長として改めて感謝の意を表したい。



医療救護・巡回診療について

高齢者歯科治療部 准教授 坪井 明人

本年3月11日に発生した東日本大震災に伴う津波被害が甚大である地域に対して、東北大学歯学研究科・病院歯科部門では、宮城県歯科医師会災害対策本部からの要請に応じて医療救護活動（巡回歯科診療）を行ってきました。本巡回歯科診療の実施に当たっては、震災後すぐに、臨床系分野・科・部の職員・大学院生から成る歯科医療派遣チームが編成され、実務的マネジメントを訪問歯科診療のノウハウが蓄積されてきた高齢者歯科治療部が担当するという体制が敷かれました。これまでに、延べ223名の歯科医師が派遣され（6月11日現在）、宮城県内の沿岸部の3市3町、98カ所の避難所および救護所を巡回し、826名の避難者の歯科医療救護を行いました。この度の震災では、電気、上下水道は言うに及ばず、交通、物流、情報通信網などのインフラの壊滅が広範囲に及んだため、歯科医療救護活動の初期においては、避難所（救護所を含む）の所在とその状況確認、また当該被災地における歯科ニーズの探索に注力することとなりました。同時に、P急発や口内炎などの消炎治療、脱離修復物の再装着、義歯修理等の応急処置、ならびに、被災者の口腔の疾病予防や呼吸器感染症の予防・治療、QOLの向上を目的に口腔ケアを実施しました。震災発生から3カ月が経過しようとする現在、多くの被災地域（地区）では、当初の応急処置が求められた歯科医療ニーズはほぼ一段落する一方、「避難時に義歯を紛失し食事を満足に食べられない」、「被せ物が製作途中であったが、津波でそのままになっていて、しっかり噛めない」といった、これまで潜在していた歯科ニーズが改めて浮かび上がっています。

今後の被災地域への支援活動は、当該地域の歯科医療施設の再開が望めず歯科治療の供給が極めて困難である状態が長期にわたると判断される地域、あるいは口腔ケアの需要が極めて高い要介護高齢者等が収容されている福祉避難所に重点を置き、これらに対して長期的かつ継続的に支援活動を行うことを計画しています。





身元確認について

歯科薬理学分野 教授 若森 実

震災後直ちに宮城県警から身元確認業務に毎日50人の歯科医師が必要と宮城県歯科医師会が依頼を受け、歯科医師会では対応できない分を東北大学歯学部が受け持つこととなりました。従って、東北大学から派遣する歯科医師は全て宮城県警の指揮下に入ることとなりました。

3月14日（月）の朝に教職員・大学院生・学生を集めての歯学部としての全体ミーティングがあり、その場で研究科長が身元確認業務についての説明と業務に携わって頂けるボランティアの募集を行いました。日を迫る毎に登録者が増え最終的には教員・大学院生・研修医も含めて175名が登録しました。翌15日（火）から36名、38名、40名、40名と最初の4日間は他県の歯科医師会の応援もなく、東北大学の歯科医師が被災地の地元の大学歯学部として身元確認業務の大部分を担いました。朝7時30分に大学に集合し、県警の車両で出て行き、夜の11時にしか大学に戻れない先生もいましたので精神的・肉体的に疲労していくのが心配でした。まだ、自宅の水道・ガス・電気が復旧していない先生が多かったので、身元確認業務から戻られた先生の為に大学では炊き出しを行いました。その後、日本歯科医学会や歯科大学・歯学部長会議を通じた応援要請を受けて全国の歯科医師ボランティアが宮城県入りした為、東北大学への応援要請は16人、10人、6人と減り4月4日からは3人にまで減りました。何時まで続くか分からなかったため、4月中のローテーションを組みましたが、4月8日の3人の要請を最後に歯学部への要請はなくなりました。南三陸町のベイサイドアリーナ、気仙沼市の白山小学校・面瀬小学校・階上小学校、女川町の女川総合体育館、石巻市の旧飯野川高校・石巻西高校・旧石巻青果市場・石巻総合体育館、東松島市の東松島市民体育館、利府町のグランディ21、名取市の増田体育館・宮城県高等看護学校・宮城県警察学校、角田市の旧角田女子高の合計15か所の遺体安置所に、延べ258名が東北大学歯学部から身元確認業務に派遣されました。参加して頂いた先生方にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

今回、研修医や大学院生の様な若者が男女を問わず積極的に参加してくれたことは、現在の日本の歯科大学・歯学部の歯科医師養成の理念と教育が間違っていない証であると確信しました。また、林教授（口腔生理学分野）や小松教授（歯科保存学分野）をはじめ7人の教授が遺体安置所へ志願して行かれたことにより歯学部での身元確認業務の士気が高まったと思っています。また、歯学部・病院の事務の方々と様々な事情で参加できなかった歯学部スタッフもサポートに回って頂き、本当にありがとうございました。オール東北大学体制で臨んだ御陰で大きな事故もなく無事に任務を遂行できたと感謝しております。

Interface Oral Health Science –Cutting Edge Research Review (5) –

歯科麻酔疼痛管理科の近況

歯科口腔麻酔学分野 教授 正木 英二



当分野では主に2つのテーマで研究を行っております。1つは周術期の疼痛管理方法の研究です。これは術前、中、後を通して手術侵襲を集中的に抑え、術後早期からの離床を促すことで、患者さんのクオリティーオブライフを上げると同時に、近年問題となっている医療費抑制に貢献できると考えているからです。実際的には、術後痛ラットモデルを用い、脊髄内への遺伝子導入、薬剤作用の効率化をナノバブルをはじめとする、様々な方法で試みております。

もう1つは、気管平滑筋の収縮機構の研究で、これは麻酔時にみられる重篤な合併症である気管支痙攣、喘息治療薬開発目的で行っております。この一環として、最近話題となっている温泉成分である硫化水素の気管支平滑筋に与える影響の研究もスタートさせました。将来的には硫黄泉入浴による肺の保護作用を証明しようと考えております。

＜全身麻酔科下歯科治療チームの設立＞

東北大学病院歯科麻酔疼痛管理科では歯科治療部門のいくつかの診療科とともに、全身麻酔下歯科治療チームを立ち上げ、平成23年3月よりその運営にあたっております。（掲示板参照）

皆様方ご存じのように、全身麻酔は主に手術時や検査時に生じる痛みや外傷などの侵襲から生体を保護し、その機能を維持する目的で用いられております。当院でも口腔外科手術、障害者歯科治療に対し、年間約500件の全身麻酔が行われています。現在、一般的な歯科治療の際には、それぞれの診療科で局所麻酔下での治療が行われていますが、歯科治療恐怖症、小児歯科治療、長時間の治療、さらには全身疾患合併患者さんなどに対しては外来での静脈内鎮静法を用い、患者さんの負担を軽減した治療が行われています。しかしながら、静脈内鎮静法を用いても十分に治療が行えず、また、治療効率などを考慮した場合、全身麻酔を必要とする症例が増えてまいりました。そこで、全身麻酔下で手術室において歯科治療を行うチームを設立いたしました。適応症例としては、繰り返しになりますが、インプラント一次手術（多数歯）、歯科治療恐怖症、異常絞扼反射、小児歯科、障害者歯科など多くの需要があります。全国の歯科大学病院等ではすでにこのような症例に対し全身麻酔下の治療が行われており、東北大学病院は他大学に比べ大きな後れを取ってまいりました。

多くの需要があるにもかかわらず、全身麻酔下歯科治療が行われてこなかったのは、東北大学病院では、全身麻酔下歯科治療の経験がある歯科医師がほとんどおらず、外科系歯科医師以外は麻酔前後の全身管理にあたれないという現状があります。そこで、我々、歯科麻酔科医が主導し治療前、中、後の周治療期全身管理を行い、治療にあたる歯科医師は治療に専念していただくことでこの問題を解決していきます。すなわち、チーム医療を行うことにより全身麻酔下歯科治療を円滑に行ってまいります。チームには補綴系、保存系、小児、障害者歯科医師が加わりそれぞれの症例に対し治療を行い、歯科麻酔科医が全身管理を行います。

まだ、スタートしたばかりですので、症例数としては満足なものではありませんし、症例の種類も偏っております。今後、多くの開業医の先生方に周知していただき（開業医向けパンフレット）、多くの症例を集めていこうと考えております。





主だった行事日程(平成23年)
詳細は歯学研究科ホームページ
(HP)をご確認ください。
<http://www.ddh.tohoku.ac.jp/>

平成23年度の主な行事

4月25日(月)	研究科オリエンテーション
5月6日(金)	歯学部オリエンテーション
6月10日(金)	第59回東北大学歯学会・総会
6月22日(水)	創立記念日
7月21日(木)	5年生CBT実施
7月23日(土)	5年生OSCE実施
7月27日(水)・28日(木)	オープンキャンパス
8月16日(火)・17日(水)	免許状更新研修(養護教諭等対象)
9月3日(土)～10月1日(土)	みやぎ県民大学(一般向け、5回コース)
10月8日(土)・9日(日)	ホーム・カミング・ディ(予定)
10月28日(金)	医学部・歯学部合同慰霊祭

授業日程の変更について

震災の影響により、今年度の歯学部専門科目の前期授業日程は、下記のとおり変更となりました。

1, 2年次	5月9日(月)～7月26日(火)、 7月29日(金)～8月12日(金)、 9月5日(月)～9月9日(金)
3, 4年次	5月9日(月)～7月26日(火)、 8月17日(水)～9月12日(月)
5年次	5月9日(月)～8月25日(木)
6年次	4月25日(月)～

全身麻酔歯科治療のお知らせ

東北大学病院では、全身麻酔下での一括歯科治療を行っています。

全身麻酔下治療の適応患者

- ・ 歯科治療恐怖症
- ・ 治療に非協力的な小児・知的障害者
- ・ 異常絞扼反射(嘔吐反射)

治療体制

①当院では1泊2日もしくは2泊3日入院での治療を行っています。

なお、どちらの形態で行うかは、患者様と相談の上、担当医が決定します。

- ・ 1泊2日の場合
治療当日の朝9時に入院していただき、午後に手術室で治療を行います。
治療後1泊していただき、翌日のお昼頃に退院となります。
- ・ 2泊3日の場合
治療前日の朝11時に入院していただき、翌日午前～午後に手術室で治療を行います。治療後1泊していただき、翌日のお昼頃に退院となります。

②治療は補綴系、保存系、小児系歯科医師と歯科麻酔科医が連携して行います。

患者紹介方法

- ①歯科麻酔疼痛管理科宛に紹介状を作成
- ②地域連携WITH枠で予約

歯科麻酔疼痛管理科の外来日は火・木曜の9時～17時です。

お問い合わせ先

東北大学病院 歯科麻酔疼痛管理科
TEL: 022-717-8420 FAX: 022-717-8404
担当: 正木 英二、水田 健太郎、的場 あつ子、安田 真

歯科治療困難な方々の口腔内環境改善の為、
ご協力をよろしくお願い致します。

平成23・24年度 歯学研究科大学院生募集

募集人員: 博士課程: 42名、修士課程: 6名
出願期間: 1次募集: 10月入学: 7月下旬、2次募集: 11月下旬
試験日: 1次募集: 10月入学: 8月下旬、2次募集: 12月下旬
今後の募集についてはHPを参照してください。
HP: <http://www.ddh.tohoku.ac.jp/>
※申請手続き等問い合わせ先
連絡先: 東北大学大学院歯学研究科教務係
TEL: 022-717-8248 FAX: 022-717-8279

平成24年度歯科医師臨床研修募集

(最新情報は東北大学病院卒後研修センターHPを参照して下さい。)
HP: http://www.hosp.tohoku.ac.jp/sotugo/sotugo_sika.html
※申請手続き等問い合わせ先
東北大学病院卒後研修センター
TEL: (022) 717-7765 FAX: (022) 717-7143
E-mail: hos-sotu@bureau.tohoku.ac.jp

平成23年度がんプロフェッショナル養成コース

口腔がん健診特別研修コースの実施

研修場所: 歯学研究科B1講義室
対象者: 歯科医師等、口腔内を観察する機会の多い方
期間: 平成24年1月22日(日)・29日(日)10時から16時まで
(予定)

がん口腔ケア特別研修コースの実施

研修場所: 歯学研究科・病院
対象者: 歯科衛生士、看護師等、口腔ケアに関わる方
期間: 平成23年10月から平成24年3月までの夕刻、10回
コースを予定(詳細は決定次第、HPに掲載)
連絡先: 東北大学大学院歯学研究科教務係
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号
TEL: 022-717-8248 FAX: 022-717-8279

人事(平成23年～)

3月	大木 宏介	助教	顎顔面外科学分野	辞職
3月	川木 晴美	助教	顎口腔矯正学分野	辞職
3月	永井 康裕	研究助教	口腔分子制御学分野	任期満了
4月	庭野 吉巳	教授	生体適合性計測工学寄附講座	採用
4月	中村 圭祐	助教	生体適合性計測工学寄附講座	採用
4月	池田 悦子	助教	顎口腔矯正学分野	採用
4月	赤塚 亮	助教	次世代歯科材料工学寄附講座	採用
4月	根本 英二	准教授	歯内歯周治療学分野	昇任
4月	小川 徹	講師	咬合回復科	昇任
4月	金高 弘恭	准教授	歯学イノベーションリソセンター	配置換
4月	洪 光	助教	歯学イノベーションリソセンター	配置換
4月	栗原 淳	研究助教	顎顔面外科学分野	分野異動
5月	宮下 仁	助教	顎顔面外科学分野	辞職

*65歳までの定年延長へ段階的に移行しています。

第59回東北大学歯学会開催のお知らせ

第59回東北大学歯学会の開催をご案内いたします。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

日時: 平成23年6月10日(金) 3時から
場所: 東北大学歯学部B棟1階講義室
特別講演: 鎌倉慎治教授(生体再生歯工学分野)
小笠原康悦教授(難治疾患・口腔免疫学講座)

編集後記

今回の東日本震災により、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、大学にもご支援をいただき、心から御礼申し上げます。今回から、ニュースレター編集委員会は第二期目に入りました。これまでの委員の皆さん、有り難うございました。これからも、皆さんの必要とするニュース、大学から発信したい旬なニュースをお届けいたしますので、宜しく願い申し上げます。

編集委員 小関健由、遠藤英昭、奥山弥生、佐藤拓一、清水良央

東北大学大学院歯学研究科地域歯科保健推進室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

TEL/FAX: 022-717-8318

URL: <http://www.ddh.tohoku.ac.jp/> E-mail: newsletter@ddh.tohoku.ac.jp



この印刷物は、環境にやさしい
大豆油インキで印刷しています。